



発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医実務研修センター
TEL (093) 691-7171
FAX (093) 692-4590
発行責任者：地方会長 大久保利晃

(題字 倉恒匡徳 筆)

第73回日本産業衛生学会 を終えて

第73回日本産業衛生学会総会・企画運営委員長

大久保 利 晃

(九州地方会長・産業医大副学長)



西暦2000年に学会を担当すると言うめぐり合わせになり、当初はなにか記念にすることをしたいと思ったのは自然の成り行きだろう。しかし、漠然と考えているうちは良かったのだが、調べてみると、この2年間に、「今世紀を振り返る」ことから「21世紀の課題」まで、すべてテーマとして取り上げられており、過去の学会を上回るような記念すべきテーマなども無いと言ったことが分かってから急に憂鬱になってしまった。

結局、20世紀とか21世紀のキーワードはあきらめ、現在わが国で各界が最も力を入れている、中小企業労働者を含めたすべての労働者へ等しく産業保健サービスを提供することを中心テーマにすることにした。

企画運営委員会が組織されると、委員の方々から次々とすばらしいアイデアをいただき、その後は全体の企画がスムーズに決まっていっていった。研究会に特別報告を任せ、展示ブースに活動報告をしてもらうなど、何故今までの学会で気づかなかったのかと思うようなことが実行に移せ、企画面では早い時期にすべての方針を決めることができたのは幸運だったと思う。

次に心配だったのは資金面である。世の中は不況の嵐の真っ只中であり、担当が決まったときには、「それまでに

は景気も回復しているだろう」とたかをくくっていたのだが、いざ準備に入る時期になっても、とても回復の兆しなど無い。それに反し、西日本総合展示場は、会場設営に予想以上の費用がかかることがわかり、資金調達目標も最初考えていたより大きな額になってしまった。結果的にはなんとか目標が達成できたのだが、関係者には多大な迷惑や心配をかけることになってしまった。

準備段階では、産業医大の多数の仲間から協力を得ることができた。そのうえ学会当日は、地方会のみなさんの加勢のもと、余裕をもって運営することができた。そのせいか、学会が終わってから他地方会の方々から、「今までで最も良かった」、とか「来年以降の主催者は大変」などとお褒めの言葉を沢山いただいている。実際には、分科会の会場が小さすぎるとか、2会場が離れているとか、問題もあったはずだが、全体の流れが良かったため、小さいことは心の片隅に押し込めていただけたのだと思う。

と言うわけで、私自身はこの学会はまあ成功裏に終わったと言わせていただけるのではないかと考えており、これもひとえに企画運営組織にご協力いただいた地方会員の皆様のお蔭であり、委員長としてこの場をお借りして心から御礼を申し上げる次第である。

寄稿

ベルナルディーノ・ラマツツイーニの業績の顕彰を — 「働く人々の病気」 発刊300年 —

鹿児島産業保健推進センター所長 松下敏夫
(鹿児島大学名誉教授)

およそ産業保健に関わる者で、「産業医学の父」とも称され、産業医科大学も建学の精神を求めているベルナルディーノ・ラマツツイーニ (Bernardino Ramazzini, 1633-1714) の名前を知らない人はいないであろう。折しも、今年、不朽の名著「働く人々の病気」(De morbis artium diatriba, 1700; 松藤元訳 北海道大学図書刊行会 1980) が発刊されてから、丁度300年にあたる。

ラマツツイーニは、1633年に北イタリアの小さな町カルピで生まれ、パルマ大学で哲学と医学を学んだ。1682年にモデナ大学の理論医学の主任に迎えられ、ここで、労働者の健康問題にも関心を持ち、以後、ヒポクラテス以降の関係文献を整理したのみならず、職場を訪問し、労働者の作業状態を観察し、労働者の病気についてその原因を調べ、これらを1690年から始まった講義「働く人々の病気」に反映させた。

1700年に、パドバ大学教授に招かれて移ったが、この年に、講義録などを元にした「働く人々の病気」が、モデナでラテン語で出版された(1713年出版の改訂増補版が定本とされている)。

それまで、職業労働と疾病との関係については、部分的に記載された論文などはあったが、体系的にまとめた書物はなかった。この書物の特徴は、第一に、マニファクチュア期のヨーロッパにおける42種(増訂版では53種)という多くの職業労働と健康との関係を取り上げている点にある。その職業には、鉱夫、鍍金屋、農民を始め、学者や助産婦、乳母、運動家、墓掘り人なども含まれている。第二の特徴は、細菌さえ不明であった時代に、病気の発生における職業の影響を重視し、「病人を訪ねた医師は、病人の職業を必ず聞くべきである」と述べ、職業によって起こる病気を、有害なガスや有毒な粉じんの発生によるもの(作業環境要因)と、有害な動作や作業条件によるもの(作業要因)の両面から整理している点にある。第三に、かかる病気の治療法のみならず、換気、マスク・手袋等の着用、作業時間の短縮など、合理的な予防対策に至るまでを体系的にまとめ上げている点にある。画期的なこの書物の出版は、1705年の独訳・英訳を始め多くの国々で訳され、社会学・経済学など産業医学以外の学問領域でも大きな影響を与えた。

今年、「働く人々の病気」発刊 300年を記念して、彼



ベルナルディーノ・ラマツツイーニ
産業医学の創始者：1633-1714
(パドバ大学所蔵)

の業績を顕彰するさまざまな行事が、多くの国々で実施されるであろう。ちなみに、発刊されたモデナでは、モデナ大学のProf. G. Francoとミラノ大学のProf. A. Griecoが中心になり、「1700-2000: モデナ、『働く人々の病気』発刊三百年記念: ベルナルディーノ・ラマツツイーニの遺産顕彰・国際会議」が、5月17日、国際労働衛生協会(ICOH)の会長を始め、多くの関係者が出席して、モデナ大学医学部ラマツツイーニ講堂で開催された。

わが国でも、9月30日に札幌で開催予定の本学会労働衛生史研究会を始め、様々なところで行われるであろう。

温故知新、この不朽の名著の発刊三百年を機に、産業保健に関わる人々が、この書物を改めて通読し、偉大な先覚者・ラマツツイーニの業績を顕彰するとともに、その精神に学び、二十一世紀における産業保健活動の発展に、大いに貢献して下さることを期待したい。「産業衛生学雑誌」及び「産業医学ジャーナル」の9月号掲載予定の拙文などを参照頂ければ幸いである

今世紀最後の日本産業衛生学会地方会を開催して

平成12年度日本産業衛生学会九州地方会学会長 竹本 泰一郎
(長崎大学医学部公衆衛生学教室)

2000年(平成12年)6月16・17日の両日にわたって長崎大学医学部で平成12年度の日本産業衛生学会九州地方会を開催いたしました。

参加者は会員105名、非学会員36名で合わせて141名でした。当日参加の非学会員のほとんどは日本医師会の産業医研修(3単位)として認定された特別講演と教育講演の来聴者でした。

一般口演は22題がよせられましたが、そのうち半数以上が事業所或いは地域保健の現場からの発表でした。産業衛生と地域保健との整合と言う点からも大変有意義であったと存じます。

特別講演につきましては、長崎大学医療技術短大部の太田保之教授にPTSDのお話をお願いしました。折りから精神障害の労災認定が進められている時期でもあり、「職場

のメンタルヘルスについて・精神障害の労災認定等」についての自由集会和併せて大変時宜をえた企画であったと自賛しております。また「産業看護職の新しい身分確立に向かって」につきましても、福光ミチ子大会長のもと産業看護職の皆様が開催される来年の学会への橋渡しが出来たのではないかと考えています。

但し、日程の都合上、自由集会在理事会と重なっていたり、懇親会の直後だったりして、参加ご希望者にご不自由をお掛けしたことをお詫び申し上げたいと存じます。昭和61年度以来14年ぶりの開催で前回の記憶も定かでなく皆様にご迷惑をお掛けしたと反省しております。

なにはともあれ、20世紀最後の地方会を無事終了出来たことも学会員の皆様と長崎大学医学部公衆衛生学教室のスタッフのご協力のおかげと深く感謝しております。

日本産業衛生学会第12回産業神経・行動学研究会を開催して

第12回産業神経・行動学研究会世話人 三角 順一
(大分医科大学公衆・衛生医学第二)

平成12年7月8日～9日コーワパークホテル由布院倶楽部(湯布院町)において、第12回産業神経・行動学研究会が2日間で延べ102名の参加のもとに行われた。

特別講演Ⅰでは早稲田大学文学部教授小杉正太郎先生に「産業職場における精神環境」と題して御講演頂いた。この中で先生は職場における新しいストレスの概念の体系化の方向性についてデータをもとにお示し下さった。

特別講演Ⅱのテーマは「音と色のバリアフリー：その先駆者達の輝き」であった。「色のバリアフリー」に関しては、朝日福祉賞受賞者である名古屋の本郷眼科院長の高柳泰世先生にお話し頂いた。色覚異常者への環境整備を実践した先生の長年の色覚特性の研究への情熱と偉大な成果、そして人々への限らない愛情に参加者一同大きな感動と強い衝撃を受けたものです。医の原点を見た思いが致したのは小生だけではなかったと確信しております。

熊本大学医学部講師の宮北隆志先生には「音のバリアフリー」と題して農村における高齢者の聴力障害者に対して音を赤外線に変換し赤外線をレーザーでキャッチすることにより、より高質の音を鮮明に聞くことができるシステムの導入経験をお話し頂いた。高齢者のQOLが向上したことを顔の表情の変化で証明している。

本研究会のメインテーマは「産業中毒の先駆的研究：そ

の発想の原点」を究明することであった。シンポジストとして労働省産業医学総合研究所長の荒記俊一先生に産業神経行動研究への係わりのいきさつ及び鉛中毒におけるサブクリニカル研究の発想の起源に言及しつつ告白のお話しを頂いた。名古屋大学の竹内康浩先生には日本から発信された有機溶剤中毒ヘキサニューロパシーの研究のいきさつについて、九州大学の井上尚英先生にはエチレンオキサイド研究の始まりについて、金沢大学名誉教授橋本和夫先生にはアクリルアミド研究について、大分医科大学助教授の熊本俊秀先生には溶接工に見られたMn中毒発見のきっかけについてお話し頂き、それぞれ含蓄の深いお話しで多くの教訓が得られた。

今回、シンポジウムに重点を置いたため、一般演題はプロモプロバンに関する演題が3題とヘキサクロロフェンに関するものが1題の計4題であった。アクリルアミドとエチレンオキサイドの日本の第1症例の報告者である関西医科大学名誉教授原一郎先生にお越し頂ければもっと有意義なものとなったと思われる。

御支援御協賛頂いた方々に紙面をお借りして御礼申し上げます。2001年の第13回研究会は大阪において大阪府立公衆衛生研究所の平田衛先生を担当世話人として開催されます。

本部理事会報告及び地方理事会報告**本部理事会報告**

平成12年7月1日に平成12年度第1回の理事会が開催された。学会にとっては、定款改正がなんといっても現在の最も重要な問題ではあるが、本稿では4月の総会以降の新たな話題に絞って報告することにしたい。

第1は、平成15年の第76回総会の開催地が初めて話題になった。ご承知のように、この年は日本医学会総会が福岡市で開催されることになっている。産衛総会はこれまで医学会総会開催地で開催することが通例になってきたので、理事会としては九州地方会に主催を検討してほしいということになった。ただしこれは、中2年間で再び福岡というのはあまりに近すぎるので、地方会理事会で検討させてもらうことで保留状態になっている。

第2は、学会の表彰制度を基本的に再検討することにな

り、その案が示された。従来の奨励賞に加え、優秀な研究者や産業保健の実践で功績のあった人などを、新たに表彰対象とすることが考えられている。理事会の中でもまだ様々な意見が交錯する状態なので、今年1年間の検討で成案ができ、来年の総会に諮られると言うのが最も早い展開であろう。

第3に、総会で設置が認められた産業保健評価委員会の構成が決まり、いよいよ本格的な活動が開始される。

第4に、最近の政府における個人情報保護に関する法制化の動きに対し、内容によっては産業保健領域でも本来の活動に支障をきたす恐れがあることから、理事長一任で担当を決め、学会としての意見を表明することとなった。

次回は10月14日の予定。(大久保利晃理事)

九州地方会理事会報告

平成12年度第1回九州地方会理事会が、平成12年6月16日(金)午後6時より長崎市において、理事11名、監事1名、幹事1名の出席のもと開催された。議題は、

1. 平成11年度第2回理事会議事録要旨(案)の確認について
2. 平成11年度事業報告及び決算報告について
3. 九州における産衛活動調査費決算について
4. 平成12年度事業計画及び予算(案)について
5. 平成13年度地方会学会の開催について
6. 平成12年度第73回日本産業衛生学会開催報告について
7. 地方会各理事分掌事項について
8. 日本産業衛生学会労働関連法制度検討委員会の委嘱について

9. 日本産業衛生学会定款改正について

10. その他

であった。上記は、翌日の評議員会と総会においても報告、承認された。

なお、平成13年度地方会は福光ミチ子(BOOCS情報センター福岡)学会長のもと、福岡市で開催予定(日時未定)であり、その他平成12年度に九州地方会で計画されている研究会は、健康管理研究会、産業看護研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会、産業神経行動学研究会(7月開催済み)などがある。さらに、平成12年11月には第100回九州医師会学会・第7分科会・産業医学会の第1回九州産業医教育講演会が開催される予定である。

(九州地方会事務局)

日本産業衛生学会九州地方会平成11年度事業報告及び決算報告 並びに平成12年度事業計画及び予算 (案)

I 平成11年度事業報告

実施年月日 実施事項及び概要

- 1) 平成11年6月10日 チェックリスト研修会が熊本総合鉄工団地(熊本県)にて開催された。参加者数：30名
- 2) 同 6月11日 第1回理事会(議長：大久保利晃) いそしぎの庄(熊本県)にて開催
(出席13名、委任状2名)、総会議事に同じ。
- 3) 同 6月12日 評議員会(議長：上田 厚、熊本大学医学部、出席35名、委任状16名)、総会議事と同じ。
- 4) 同 6月12日 総会(議長：小山和作)熊本大学・医学部にて開催(出席53名、委任状322名)。
議事 (1) 平成10年度事業・決算報告及び監査報告について (2) 平成11年度事業計画・予算案について
(3) 平成12年度地方会学会開催について (4) 第73回日本産業衛生学会の開催について
(5) 平成11-13年度役員改選について
- 5) 同 6月11-12日 地方会学会(学会長：上田 厚) 熊本大学・医学部にて開催。
特別講演「じん肺の新しいアプローチーい草作業者のじん肺についてー」伊藤清隆(熊本労災病院・呼吸器内科部長)。特別講演：1題 指定講演：5題 一般講演：19題で開催。参加者数：110名
- 6) 同 7月24日 労働者の生涯健康の支援を考える会が九州電力スカイルーム(福岡県)で開催。参加者数：31名
- 7) 同 8月31日 地方会ニュース「産衛九州」第6号発行。
- 8) 同 10月8-9日 日本産業衛生学会・第27回有機溶剤中毒研究会が白雲荘(沖縄県)で開催。参加者数：54名
- 9) 同 11月27日 産業看護研究会が九州エネルギー館(福岡県)で開催。参加者数：62名
- 10) 同 12月11日 健康管理研究会が福岡県看護等研究研修センター(福岡県)で開催。参加者数：90名
- 11) 同 12月25日 第2回理事会(議長：大久保利晃)福岡産業保健推進センター会議室にて開催。
議題 (1) 平成11年度第1回理事会議事録(案)の確認について (2) 平成11年度事業及び決算の中間報告について
(3) 平成12年度事業計画並びに予算(案)について (4) 平成12年度地方会学会の開催について
(5) 第73回日本産業衛生学会(平成12年)の準備について (6) 地方会分掌事項について
(7) その他
報告事項 (1) 日本産業衛生学会本部関係 (2) その他
- 12) 同 3月31日 地方会ニュース「産衛九州」第7号発行。

II 平成11年度収支決算報告

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
平成11年度交付金	972,000	966,000	△ 6,000	@1500×644人
平成10年度繰越金	124,225	124,225	0	
雑 収 入	291	105	△ 186	銀行利息
計	1,096,516	1,090,330	△ 6,186	

但し330,000は監査後11年度分として4月以降入金

2. 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	実 績	増 減	備 考
地方会学会開催費	150,000	150,000	0	
研究会補助金	250,000	250,000	0	5件
次期役員選挙費用積み立て	60,000	60,000	0	

連絡通信費	130,000	89,175	△ 40,825	
消耗品費	20,000	11,140	△ 8,860	
会議費	60,000	44,400	△ 15,600	
地方会ニュース発行費	220,000	192,800	△ 27,200	第6号・第7号発行費
予備費	206,516	0	△ 206,516	
計	1,096,516	797,515	△ 299,001	

但し地方会ニュース発行費82,595、消耗品費11,140、次期役員選挙費用積み立て60,000は監査後11年度分として4月以降支出
平成11年度現時点の収支残 292,815 円 (平成11年度現時点の次期役員選挙費用積み立て総額60,000円)

九州における産衛活動調査費 (残額)

〈収入の部〉

残額 403,033

利息 119

合計 403,152

〈支出の部〉

送料 44,303

送料 2,960

合計 47,263

残額 355,889

(但し監査後発送費として2,960を4月以降支出 残額355,889 を12年度一般会計に繰越金として統一)

(平成11年度繰越金648,704は一般会計残額292,815+特別会計残額355,889)

Ⅲ 各県別会員数 (平成12年6月9日概数)

	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	合計	(会費納入済)
12年度	417	24	35	55	49	19	57	19	675	(336)
11年度	431	24	33	52	53	20	50	20	683	(644)
10年度	450	28	30	52	61	22	49	24	716	(58)
9年度	439	26	27	51	61	21	42	25	692	(613)

Ⅳ 平成12年度事業計画 (案)

- 第73回日本産業衛生学会開催
- 地方会学会の開催 学会長：竹本 泰一郎 長崎大学にて開催
- 研究会の開催 健康管理研究会、産業看護研究会、労働者の生涯健康の支援を考える研究会、産業神経行動学研究会、第100回九州医師会学会第7分科会産業医学会第1回九州産業医教育講演会
- 地方会ニュース「産衛九州」第8・9号の発行
- その他

Ⅴ 平成12年度予算 (案)

1. 収入の部

(単位：円)

科 目	11年度実績	12年度予算
平成12年度交付金	966,000	966,000
平成11年度繰越金	124,225	648,704
雑収入	105	105
計	1,096,516	1,614,809

2. 支出の部

(単位：円)

科 目	11年度実績	12年度予算
地方会学会開催費	150,000	200,000
研究会等補助金	250,000	250,000
次期役員選挙費用積み立て	60,000	60,000
連絡通信費	89,175	130,000
消耗品費	11,140	20,000
会議費	44,400	60,000
地方会ニュース発行費	192,800	220,000
予備費	0	674,809
計	797,515	1,614,809

注：11年度に該当する予算項目に限って作成。

日本産業衛生学会指導医紹介

今回は180番以降の方をお願いしております。(以下、登録番号順に紹介)

“かかりつけ医”と産業医

産業医科大学 産業医実務研修センター

林 田 一 男 (指導医登録番号180)

昭和30年3月王子製紙日南工場長から工場の付属病院内科医長と工場の医師衛生管理者を命ずるとの辞令を受け取ったとき病院のことは大学の医局長から聞いていたので特に驚かなかったが、後の医師衛生管理者とは何のことか全然わからずあえて、これはなんですかと聞いたことを覚えている。

昭和24年卒業して九大第3内科で感染症特に結核の管理の勉強中だったので、早速労働衛生の勉強も始めようと産業衛生学会に入会して、学会主催の各種のセミナーに、あるいは日本医師会の産業医講習会に第1回から殆ど毎回出席していた。

昭和37年頃付属病院院長になって、九大の加地正郎教授のお誘いを受け、九大の総合診療部の柏木征三郎教授、宮崎県日本赤十字血液センター新宮世三先生と一緒に四人で研究グループをつくり、血液を介する感染症をテーマに、インフルエンザの疫学調査や厚生省のワクチン研究会に参加した。

続いて各種肝炎ウイルス感染症、およびATLからHIVまで各地の感染症の疫学調査研究を行ってきた。この間20年ほどの間に、国際学会を始め国内の学会に延べ41回の論文発表と86回の学会発表を行っている。専門医の中でも感染症の部門を専攻した者は少ないと思われる。

又、早くから医師会の社会活動に意を注ぎ、地域医師会の理事や県医師会の理事を始め、特に産業医部門の活動に力を注ぎ昭和47年の労働安全衛生法の改正にもとづいた産業医制度の誕生とともに、宮崎県医師会内に産業医部会を結成した。日医の所謂“かかりつけ医”と産業医とは非常に密接な関係があることを強調しそれにとりもった研修に務めました。

産業医科大学・産業医実務研修センター

藤 代 一 也 (指導医登録番号1002)

専門医で自己紹介させていただいて(本ニュース第2号)から3年たち、指導医の末席を汚すようになりましたので、その後の成長(?)をご報告したいと思います。この間、大学教員としては講師から助教授になり管理職となりました(産業医科大学では組合加盟は講師までなので)。とは申しましても業務的には大きな変化はありません。日々講義・実習のお世話に追われています。一方、大学の産業医も中小企業の嘱託産業医も続けていますが、今

春の第73回日本産業衛生学会での地域交流集会では、お世話になっている事業場の専従組合員の方から私の産業医活動の報告がされ、冷や汗を流しました(内容については略します!)

しかし、つくづく私は幸せな産業医活動が続けられていると実感しています。この3年間は不景気で、倒産等も数多く耳にしましたが、私が嘱託産業医をしている事業場はすべて好成績で、新工場を建てたり新しい事業を起こしたりと非常に活気のある、やりがいのある事業場ばかりでした。しかし、以前契約していた某社は今は倒産して無く、100人以上いた別の某事業場は50人以下となり産業医契約も打ち切ったと聞きます。指導医となって、研修中の先生方に私の色々な経験を伝達し、専門医取得に役立てていただけたらと思っています。

研究会・研修会その他案内

○産業看護研究会

日 程：平成12年11月18日(土) 9:30-12:30

会 場：福岡県看護等研究研修センター

福岡市中央区赤坂1-14-5

連絡先：九州電力(株)本店健康管理室 森中恵子

TEL 092-726-1623

○健康管理研究会(詳細未定)

日 程：平成12年11月18日(土) 13:30- 予定

会 場：福岡県看護等研究研修センター 予定

備 考：産業保健九州会議と併催予定

連絡先：トヨタ自動車九州(株)安全衛生管理室 田中雅人

TEL 09493-4-2028 FAX 09493-4-2029

○第100回九州医師会学会第7分科会産業医学会

第1回九州産業医教育講演会

日 程：平成12年11月19日(日) 10:00-10:50

会 場：熊本市産業文化会館 熊本市花畑町7-10

備 考：定員あり。事前の申し込み必要、9月末日まで

連絡先：〒860-0811 熊本市本荘2-2-1

熊本大学医学部衛生学講座

第1回九州産業医教育講演会事務局

TEL 096-373-5106 FAX 096-373-5108

○労働者の生涯健康の支援を考える会 平成12年度研究会

日 程：平成13年1月13日(土) 10:00-15:30

会 場：福岡産業保健推進センター

テーマ：「産業看護;教育の目指しているもの」

連絡先：九州電力(株)本店健康管理室 森中恵子

TEL 092-726-1623

(いずれも8月末日現在)

女性会員の声

労働衛生コンサルタント試験にチャレンジして

(財)西日本産業衛生会 大分労働衛生管理センター 吉岡 真理

この度、労働衛生コンサルタント試験(保健衛生)に合格し、未熟ながら労働衛生コンサルタントの仲間入りをさせていただくことになりました。今回は日頃ご指導いただいている大分医科大学の三角順一教授よりコンサルタント試験合格記の寄稿の依頼を頂きました。文章を書くことが苦手な私ですが、労働衛生コンサルタントを目指す方々の刺激になればと思いペンを取りました。

私は、平成元年に大分県立厚生学院保健助産学科を卒業後、(財)西日本産業衛生会 大分労働衛生管理センターに入社しました。学生時代は助産婦資格取得のための臨床実習に明け暮れる毎日でしたが、縁あって産業保健の場に身を置く事になりました。入社して、まず特殊健診の種類多さに驚き、現場に行けば現場の専門用語がまるでわからず、右往左往していました。しかし、幸いなことに職場が企業外労働衛生機関であった為、保健婦の先輩は勿論、労働衛生に長けた産業医の先生方や作業環境測定士の方々に

ご指導いただき、現場では担当事業場の皆様にもいろいろと教えていただきながら少しずつ知識を増やし経験を重ねていくことができました。

産業保健の場で働けば働くほど、臨床とは異なるその奥深さと、自分の知識不足を感じる事が多く、自分自身の産業保健婦としてのステップアップのひとつとして、コンサルタント資格の取得を漠然とながら考えていました。保健婦になって10年が過ぎ、労働衛生コンサルタント資格をもつ職場の上司の勧めもあって、昨年度受験致しました。

今回幸運にも合格できたのは、今日までご指導いただいた産業医の先生方をはじめ、職場の皆さん、担当事業場の皆さんのお陰だと大変感謝しています。これからも働く皆様の健康と幸せのために、微力ではありますが何かお役に立てればと思います。その為にも、これからも好奇心とチャレンジ精神をもって自己研鑽に努めたいと思っています。

編集後記

この烈夏も赤トンボの色づきと共に去りつつあるこの候、会員の皆様には恙なくお過ごしのことと拝察いたします。今回、三角教授より代りに後記をと依頼あり、この機会に現在の編集手順を記してみたいと思います。

編集の始まりはアウトライン作成ですが、項目が上がり次第、執筆者への依頼となり、締め切り日設定となります。ここまでおよそ一ヶ月。短期のメ切期限にも関わらず多くの原稿が、Eメール・FAX・郵送にて寄せられますと、産衛九州の紙面とほぼ同じものをワープロで作成したものに原稿のテキストファイルを流し込み体裁を作っていきます。それを仮の紙面としてプリントアウト、原稿テキストファイルを納めたフロッピーと共に印刷屋さんにお渡しします。その後、校正(3校までいきます)を行い紙面完成、本印刷、発送となるのが締め切り日の3から4週間となっております。

無理なお願いに快く応じて頂く地方会の先生方にはいつも感謝しておりますが、当方に失礼な段も多々あり平にお許しの程お願い申し上げます。

(工藤記)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成12年8月31日

編集正責任者：三角 順一 (大分医科大学)
 編集副責任者：東 敏 昭 (産業医科大学)
 編集委員：青木 一 雄 (大分医科大学)
 青山 公 治 (鹿児島大学)
 石竹 達 也 (久留米大学)
 市場 正 良 (佐賀医科大学)
 畝 博 (福岡大学)
 大村 実 (九州大学)
 小柳 敦 子 (日赤熊本健康管理センター)
 新城 正 紀 (沖縄県立看護大学)
 永田 耕 司 (長崎大学)
 日笠 理 恵 (福岡県市町村職員共済組合)
 前原 正 法 (宮崎医科大学)
 宮北 隆 志 (熊本大学)
 吉 積 宏 治 (産業医科大学)

(五十音順)

〈編集事務局連絡先〉

〒879-5593 大分県大分郡挾間町医大ヶ丘1-1
 大分医科大学公衆・衛生医学(Ⅱ)講座
 (担当：青木、工藤、園田)
 TEL (097) 586-5742
 FAX (097) 586-5749